

# 財務の概要

## 平成28年度決算の概要

### 【事業活動収支計算書】

\* ( ) 内は前年度決算増減額

#### 1 教育活動収支

##### A 教育活動収入

421,762,613 円 (減 15,724,434 円)  
対予算 増 8,229,613 円

① 学生生徒等納付金収入 115,974,000 円 (減 12,510,900 円)  
対予算 増 718,000 円

高校生が4名増加するも、大学生が14名減少したことにより、前年度に対して減額となった。

② 手数料収入 1,789,700 円 (増 303,500 円)  
対予算 増 609,700 円

29年度入学志願者が対前年大学生4名、高校生10名増加したことにより入学審査料が増額となった。

③ 寄付金収入 157,358,816 円 (減 888,418 円)  
対予算 増 4,758,816 円

ア. 特別寄付金—7,946 千円 (減 395 千円)

3,000 千円(宗務院から東洋文化研究所、行学寮へ)、1,600 千円(同窓会・保護者会)、1,000 千円(ラオスサポーターズクラブ)、800 千円(朝日新聞厚生文化事業団)、600 千円(各種奨学金)、946 千円(仏像彫刻賛助)

イ. 一般寄付金—149,365 千円 (減 513 千円)

128,000 千円(本山)、18,000 千円(宗務院)、2,000 千円(せいしん)、700 千円(同窓会)、665 千円(教育振興資金の寄付金)  
教育振興基金への寄付金の減額により、前年度からの減額となった。

④ 経常費等補助金収入 121,537,890 円 (減 6,809,744 円)  
対予算 増 2,537,890 円

ウ. 国庫補助金—77,786 千円 (減 7,299 千円)

学生数の減少、交付基準の見直し等により、経常費補助金が3,530 千円減額、また、教育活性化事業補助金が3,742 千円減額となったもの。

エ. 県からの補助金—43,752 千円 (増 489 千円) 私立学校運営補助金

⑤ 付随事業収入 6,327,313 円 (減 2,616,240 円)  
対予算 増 192,313 円

介護技術講習会講習料、行学寮・女子寮費、自販機販売手数料等である。介護技術講習会取りやめにより減額。

⑥ 雑収入 18,774,894 円 (増 6,797,368 円)  
対予算 減 587,106 円

退職金交付金が5,528 千円増額、国際交流基金(ラオス仏像修復)からの補助金が3,823 千円増額となった。

##### B 教育活動支出

506,564,209 円 (減 13,432,363 円)  
対予算 減 44,176,131 円

⑦ 人件費支出 337,927,809 円 (減 2,863,752 円)  
対予算 減 609,391 円

高校教諭の人件費が5,038 千円増額となるも、大学教員が9,152 千円、職員が

2,000千円の減額となり給与面だけでは6,114千円の減額となった。ところが、退職金が3,513千円増額により最終的に対前年2,863千円の減額にとどまった。

⑧ 教育研究経費支出 115,221,158円(増 1,702,385円)

対予算 減 23,894,760円

オ.海外仏像修復費が4,112千円、資産価値増加に伴い、カ.減価償却額が4,680千円が増額となるも、全般的な経費圧縮により、対前年1,702千円の増額に抑えた。

⑨ 管理経費支出 53,415,242円(減 11,234,956円)

対予算 減 19,671,980円

資産価値増加に伴い、ケ.減価償却額が882千円増額となるも、勧募出張の機会減少により、キ.旅費交通費1,650千円、ク.渉外費2,391千円の減額、また、27年度行った20周年記念事業4,143千円の減額その他の勘定の圧縮により、対前年11,235千円の減額となった。

【I】 教育活動収支差額 ▲ 84,801,596円(マイナス分増 2,292,071円)

対予算 マイナス分減 52,405,744円

## 2 教育活動外収支

C 教育活動外収入 9,919,911円(減 1,411,419円)

対予算 減 934,889円

運用商品が低金利であるため。

D 教育活動外収支差額 9,919,911円(減 1,411,419円)

対予算 減 934,889円

【II】 経常収支差額 ▲ 74,882,485円(マイナス分増 3,703,490円)

対予算 マイナス分減 51,470,855円

## 3 特別収支

E 特別収入 127,865,597円(減 248,294,313円)

対予算 減 6,734,403円

コ.有価証券売却益が54,628千円あるも、サ.設備寄付金(耐震勧募寄付金)104,208千円、施設設備補助金(耐震事業への国庫補助金)196,714千円の減額により大幅な減額となった。

F 特別支出 3,354,689円(減 112,358円)

対予算 増 3,354,689円

G 特別収支差額 124,510,908円(減 248,181,955円)

対予算 減 10,089,092円

【Ⅲ】基本金組入前当年度収支差額	49,628,423 円 (減 251,885,485 円)
対予算	減 45,836,623 円
H 基本金組入額	28,599,464 円 (減 467,947,592 円)
対予算	増 18,138,464 円
【Ⅳ】当年度収支差額	21,028,959 円 (増 216,062,147 円)
対予算	増 27,698,159 円
I 前年度繰越収支差額	▲ 1,085,214,581 円
J 基本金取崩額	35,590,490 円
K 翌年度繰越収支差額	▲ 1,028,595,132 円

#### 【貸借対照表】

##### (1) 資産の部

減価償却による a. 建物 55,531 千円の減額等あるも、b. 図書 8,153 千円、c. 有価証券 200,000 千円の増額等により、A. 固定資産は 153,080 千円増額した。

流動資産は、d. 現金預金 86,289 千円の増額あるも、e. 未収入金 202,209 千円（文科省からの耐震工事、教育活性化事業補助金）等の減額により、B. 115,905 千円の減額となった。

資産合計では I. 3,121,377 千円となり、対前年 C. 37,175 千円の増額になった。

##### (2) 負債の部

f. 長期借入金 10,800 千円減額により、D. 固定負債が 10,810 千円の減額となった。

g. 未払金が増額となるも、h. 前受金等の減額により E. 流動負債が 1,644 千円減額し、II. 負債の部合計では F. 12,454 千円の減額となった。

##### (3) 純資産の部

1号基本金が基本金の取り崩しにより 6,991 千円減額した。

繰越収支差額は 56,619 千円好転し、純資産の部合計では 49,628 千円の増額となった。

上記から、

資産 (3,121,377 千円) = 負債 (143,714 千円) + 純資産 (2,977,663 千円)  
が成立している。